

百年後も誇りに思える 美しいまち『太宰府』を目指す、協働のまちづくりのための会議

第6回 太宰府市 景観・市民遺産会議

平成28年3月13日 日 13時～16時30分
九州国立博物館ミュージアムホール

プログラム

12:30 開 場

13:00 開 会

13:05 **だざいふ景観賞**

第2回表彰式



第2回だざいふ景観大賞「宝満宮 参拝隧道」

13:40

16:15

太宰府市民遺産

①昨年度(平成26年度)認定 太宰府市民遺産の育成活動報告

市民遺産第10号「太宰府の梅上げ行事」
育成団体：太宰府梅ばやし隊

市民遺産第11号「高雄の自然と歴史」
育成団体：高尾山の自然と歴史を語り継ごう会

②太宰府市民遺産候補の提案

市民遺産候補「太宰府悠久の丘 ーメモリアルパークからの眺望ー」
提案団体：公益財団法人 太宰府メモリアルパーク

③太宰府市民遺産の育成活動発表

市民遺産第5号「万葉集つくし歌壇」
育成団体：大宰府万葉会

市民遺産第9号「刈萱の関跡とかるかや物語」
育成団体：かるかや物語を伝える会

④太宰府市民遺産候補の認定採決

⑤市民遺産認定書授与式 (市民遺産候補が認定された場合のみ行います)

16:30

閉 会 (タイムスケジュールは、当日の進行状況によって変更となる場合があります)

エントランスホールにて 育成団体によるポスターセッション(パネル展示)を開催しています。



未来の太宰府に届けたい。みんなのたからもの、『太宰府市民遺産』。



市民遺産第10号「太宰府の梅上げ行事」

育成団体：太宰府梅ばやし隊

「梅上げ」とは、初老(40歳)を迎える男性、還暦(60歳)を迎える男女が、それぞれ厄払いとして太宰府天満宮に梅の木を奉納する行事です。太宰府梅ばやし隊では、近年、梅上げのお囃子を担っています。

昨年3月も、還暦と初老の梅上げが行われ、「太宰府梅ばやし隊」がお囃子でにぎやかに行事を盛り上げました。11月にはいきいき情報センターにおいて、梅上げ行事の写真展を実施し、昭和初期から現代までの梅上げ行事の写真を展示し、多くの方々にこの行事を知って頂くことができました。市民遺産認定後も様々な場所に招待され、12月には太宰府特別支援学校で三味線交流を実施しました。

そのほか太宰府梅ばやし隊は、太宰府の伝統や文化の継承・普及活動も行っています。



梅ばやし隊



梅上げの様子



梅上げ行事写真展



市民遺産第11号「高雄の自然と歴史」

育成団体：高尾山の自然と歴史を語り継ごう会

高雄地区は、太宰府市の東南に位置し、標高151mの高尾山を源流とする高尾川が流れ、自然と歴史が豊かなところ です。

高尾山の一部には、荒れた山林や竹林が点在するため、地権者の了解を得て、倒木や枯れ木などを伐採・整理を行い、里山の姿を取り戻す活動を続けています。また、地域に点在する石仏や史跡周辺では定期的に清掃を行っています。

春と秋には、高雄の史跡散策を実施し、多くの地元住民の参加がありました。12月には地元の南小学校6年生と文化遺産散策を実施し、高雄の文化遺産を知る良い機会となりました。

今後も高尾山や文化遺産の整備、文化遺産の散策を続けていきます。



高雄の竹林整備



文化遺産解説



文化遺産散策

「太宰府^{ゆう きゅう}悠久の丘 —メモリアルパークからの眺望—」

提案団体：公益財団法人 太宰府メモリアルパーク

伝えたい物語

太宰府メモリアルパークには2つの眺望点があります。そこから遠く博多湾まで見渡すことができ、太宰府屈指の雄大で素晴らしい景色を望むことができます。

その眺望点は、そこに立ち・望む人によって「それぞれの物語」を生み出していく場所です。例えば「水城跡」「四王寺山」「宝満山」を通して白村江の戦いや古代太宰府の繁栄を思い浮かべる者、太宰府から博多湾までの距離を見て古代・中世と太宰府が大陸との交流拠点として発展した地理的背景を感じる者。そして、飛行機が離発着を繰り返す福岡空港や車が行き交う高速道路、都会化した街並みから現代における人々の営みを思い描く者。それは眺望を通じて、幾多の物語を生み出し時を超え変化し続ける『悠久』の街の姿を感じる場所なのです。

【展望台設置の経緯】

太宰府メモリアルパークは高台に位置し、博多湾まで見渡すことができる眺望点があります。その中において特に眺望が良いポイントを展望台として整備することにより、墓所をお持ちの方だけではなく、遠足で来られた園児などの一般利用者がくつろげるスペースとして開放しています。

くつろぎと歴史を感じる丘として整備された2つの展望台には、それぞれ異なった魅力が存在します。「大宰府の丘展望台」には背景に広がる四王寺山を活かし太宰府所縁の万葉歌碑が立ち並びます。「大野山 霧立渡る わが嘆く 息嘯の風に霧立ちわたる」山上憶良（万葉集巻5・799）に詠まれた当時の大宰府を彷彿とさせることでしょうか。一方「夫婦桜展望台」は標高180mに位置し、山桜である「夫婦桜」を中心に開けた展望台です。ここからは海に続く広大な大地を望め、アジアの玄関口として発展した「福岡」の姿を一望できます。また、ここからの眺望は園内植栽と合わせ四季折々で美しく変化し、春はツツジやバラ、秋から冬には眼下に広がる霧が立ち込める雲海を望むこともできます。

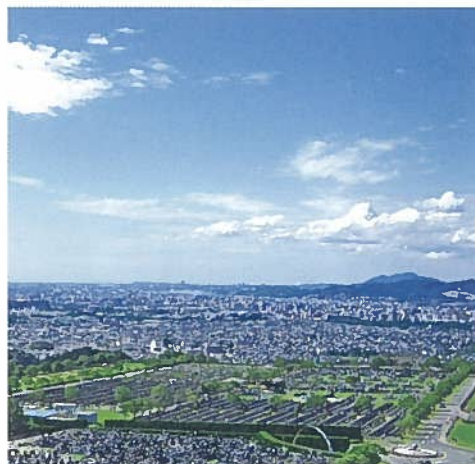
このような歴史の街「太宰府」とアジアの玄関都市「福岡」を同時に見渡せる眺望点を、市民遺産として市民に周知・活用して頂き、より多くの物語が語られる場所として育成してまいります。

物語の基礎となる文化遺産

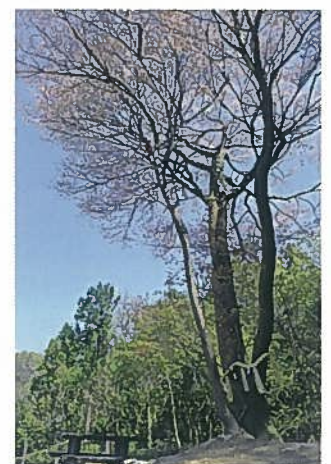
- 夫婦桜展望台
- 水城跡
- 大宰府の丘展望台
- 博多湾
- 宝満山
- 福岡市街地
- 四王寺山
- 万葉歌碑

育成活動

- 眺望に関わる周辺環境の保全
 - ・ 展望台としての整備、万葉歌碑の保全
 - ・ しゃくなげ参道の整備と環境管理
 - ・ 園内の植栽管理
 - ・ 園内の万葉歌碑の保全とPR活動
- 眺望の紹介と、万葉歌碑による太宰府の歴史を含めた文化貢献活動
 - ・ 展望台の一般開放（年中無休・営業時間内）
 - ・ 8月15日「送り火」における夜間開放
 - ・ 万葉歌碑見学会の実施
 - ・ 万葉歌碑関連の文化団体との連携
 - ・ 展望台からの眺望写真パネルの公開（雲海などの画像）
 - ・ 来園者へのPRパンフレットの配布



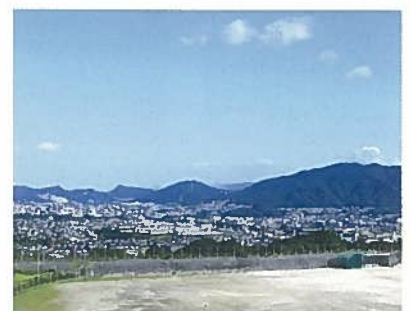
夫婦桜展望台からの眺望



樹齢約200年の夫婦桜



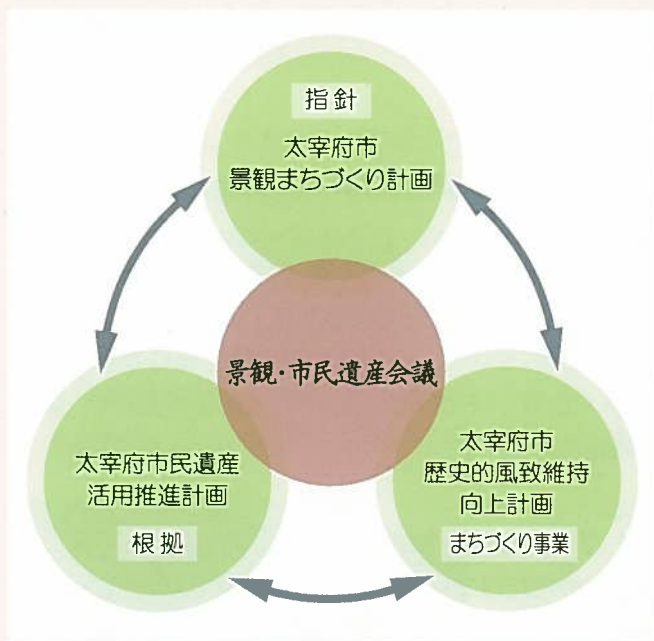
大宰府の丘展望台



大宰府の丘展望台からの眺望

太宰府市景観・市民遺産会議とは

景観・市民遺産会議は、条例で位置づけられた3つのまちづくりの計画を動かしていく、市民・行政・事業者の協働組織です。



❁ 太宰府の景観と市民遺産を守り育てる取り組み

市では、平成22年に「太宰府の景観と市民遺産を守り育てる条例」を設け、景観計画に基づく地域の良好な景観形成と、市民主体で地域のたからを守り伝える活動を行政・市民・事業者の三者協働で支えるしくみ「太宰府市民遺産」の取り組みを進めています。

「太宰府市民遺産」とは、市民一人ひとりが「大事な」「未来の太宰府に伝えたい」と思う太宰府固有の物語と、関連する文化遺産、そして物語を伝える活動(育成活動)とを合わせたものをいい、景観・市民遺産会議の場で市民が提案をし、会議によって認定されたもので、これまでに11の提案が太宰府市民遺産として認定されています。

❁ 景観・市民遺産会議の構成メンバー

太宰府観光協会、太宰府市自治協議会、太宰府天満宮、商工会(観光・商業・工業)、有識者、太宰府市(建設経済部・教育部)、景観・市民遺産育成団体(現在15団体)

太宰府市民遺産認定に関する指標

太宰府市民遺産は、景観・市民遺産会議の納得をもって認定されます。納得のためのめやすとして、以下の指標が設定されています。

①伝えたい太宰府固有の物語である

- ・将来に守り伝えていきたい物語が、地域の人々や市民が共有でき、納得できるものである。

②物語が、文化遺産で構成されている

- ・物語が、文化遺産で構成され語られている。

③文化遺産を保存活用する活動である。

- ・自立的かつ継続的な活動である。
- ・文化遺産の育成にふさわしい活動である。

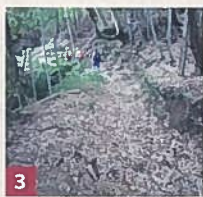
これまでに認定された太宰府市民遺産



1 太宰府の木うそ



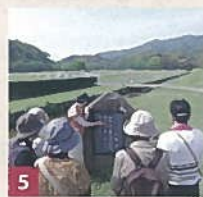
2 はっさく せんとうめいろう
八朔の千燈明



3 かつてあった道
「四王寺山の太宰府町道」



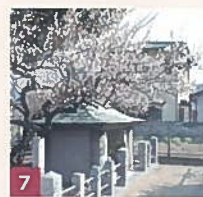
4 とみなが ちゆうどう
芸術家 富永 朝堂



5 万葉集つくし歌壇



6 太宰府における
時の記念日の行事



7 くままるこう
隈磨公のお墓



8 かやしほけ
太宰府の絵師 萱島家



9 かるかや
対萱の関跡と
かるかや物語



10 太宰府の梅上げ行事



11 高雄の自然と歴史



第2回

だきふのふ 景観賞

受賞スポット



百年後も
「古都太宰府の風景」
が映えるまち

いあいさつ

日頃より、太宰府市の景観行政にご協力いただき厚く御礼申し上げます。本市では太宰府市景観計画を平成二二年に策定し、昨年からの取り組みを始めました、このだきふ景観賞も本年で二回目を迎えることが出来ました。

今回も市内外問わず、たくさんの方々の皆さまのご応募をいただき、合計二十作品の中から四つの作品が選ばれました。受賞作品は、物語性をもつものから、景観まちづくり計画と深く関係を持つもの、太宰府市の自然など、多様な物件が受賞作品となりました。

今後とも太宰府の個性ある景観を百年先まで引き継ぎ、守り、育て、そして創造していくため、市民・事業者の皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。

結びに、審査をしていただきました、景観・市民遺産審議会委員の皆様、ならびに関係者の皆様方のご協力に感謝申し上げますとともに、受賞者並びに応募者の皆様方の今後益々の活躍を心からお祈りいたします。



太宰府市長
荒刈 茂

第2回だざいふ景観大賞



宝満宮 参拝隧道【昭和3年築造】

所有者 西高辻 信良 発注者 麻生 太吉（故人） 請負者 古賀 朝幸（故人）
 選定理由 歴史に富んだ建造物であり、隧道開道に関わりのある人々の物語も貴重である。そんなストーリーと受け継がれてきたからこそ醸し出している空気感が大賞にふさわしい。

第2回だざいふ景観賞への多数のご応募ありがとうございました。
 「太宰府の景観を創っている素敵な作品」として応募をいただいた作品の中から選考を行った結果、各賞が決まりました。



前回受賞作品



市長賞



学校院跡のカイの木【平成9年植樹】

所有者 太宰府市 植樹提案者 馬場 宣彦（故人）
 選定理由 中国から太宰府天満宮にゆずられたカイの木は当時市内13ヶ所に植樹された。平成27年の台風で倒木があり、現在一本となっているが、このカイの木が持つストーリーを思いめぐらせると市長賞にふさわしいと選定した。



景観賞



KANZEONJI 格子の家【平成26年建築】

所有者 佐藤 正則
 設計者 株式会社 山田デザイン研究室
 選定理由 市の景観計画における育成地区内での現代建築物において歴史性を感じさせてくれる外観となっており、景観計画を考慮したうえでの設計に、所有者・設計者の景観に対する意識の高さがうかがえる。



粉倉と赤レンガ塀【粉倉：大正7年建築】

所有者 陶山 真弘
 選定理由 粉倉と赤レンガ塀については、日田街道に沿って古い時代から現代につながって、その時代の変遷を想起させる。レンガ塀というものが景観として効果的な役割を果たしている。



第2回 だざいふ景観賞の概要

市内の良好な景観形成に資する建築物等を顕彰することで、太宰府市が推進している景観まちづくりの啓発を行うとともに、太宰府市内における景観水準の向上を目的とする。

●太宰府における景観とは？

私たちの目に映る、太宰府を形づくる様々なものが景観です。例えば、四王寺山などの山や御笠川などの河川、そして太宰府の歴史を物語る都府楼跡や太宰府天満宮などの文化財、人々が行き交う道路や住まう建物等です。さらに、これら太宰府らしい景観をつくり出す人々の活動も含めて、太宰府の景観と考えています。※見る側の個性的な見方ではなく、景観をつくり出すモノや活動が景観賞の対象です。

募集・選考

●作品募集

期間・平成27年5月1日(金)～6月30日(火)

応募方法・郵送、電子メール、市役所都市計画課窓口での書類受付

●市民人気投票(本審査のための参考資料)

期間・平成27年8月4日(火)～8月31日(月)

方法・市内公共施設5ヶ所に応募作品一覧表を提示、市内外の来場者による任意の投票

回収した投票用紙数・332枚

●審査

期間・平成27年10月中旬から12月中旬

審査員・太宰府市景観・市民遺産審議会委員(15名)

方法・全応募作品を共通採点項目に基づく採点后、第9回太宰府市景観・市民遺産審議会にて各賞を決定
受賞作品は本紙1、2ページをご覧ください。

第3回だざいふ景観賞を平成28年度に開催します。5月頃(予定)に市公式ホームページ・市政だより・ポスター・チラシなどでお知らせいたします。皆様からのたくさんのご応募、お待ちしております。

審査員講評

第2回景観賞が決まりました。市民の皆さんからも多数のご支持のあった「宝満宮参拝隧道」は物語り性も豊かであり、長く残していきたい景観です。このほか、市民の発案でいしえの学業の場所に移植された孔子ゆかりの地から渡来の楷の木、設計の段階から景観配慮の協議が重ねられた現代住宅、参道や都府楼跡から離れた場所ではあっても残されている日田街道ぞいの赤煉瓦塀と白壁のモミ蔵と、今回は、多様性あふれる景観賞の表彰とすることができました。これも熱心に応募くださった皆様のご協力の賜物でした。心から感謝いたします。

こんな景観がある、と気づくことが景観づくり、景観保全の第一歩です。これからの末永く太宰府市の景観賞の制度が続くことを願っています。

太宰府市景観・市民遺産審議会 会長

浅野 直人(福岡大学名誉教授)



太宰府市建設経済部 都市計画課
景観・歴史のまち推進係

〒818-0198

福岡県太宰府市観世音寺一丁目1-1

電話 092-921-2121

Eメール urban-planning@city.dazaifu.lg.jp